

食卓が 勉強机



吉村 幸代

「あれ」と、小首を傾げる
ことが続いた。

昨年末、衆議院議員総選挙
を経て、自民党の安倍総裁が
首相に返り咲いた。数日後、
令夫人のコメントが全国紙に
載った。大見出しは「市民の
声、主人に伝えたい」。

「主人」とは、広辞苑によ
ると「①一家のあるじ。②自
分の仕えている人。③人を貴
んでいう語。④妻が夫を指し
ていう称。⑤客に対して、こ
れをもてなす人」である。

自分と同じ年の総理大臣。

年下の夫人が夫君を「主人」
と公言したことに、私はかす
かな違和感を覚えたのだっ
た。主従関係を語源とする呼
称が、対等なパートナーシッ
プに適するとは思えない。も
しや、「保守への回帰」を危
惧する新聞社が、意図的に大
見出しに用い、問題を投げ掛
けているのかと勘ぐりもし
た。

極めつきは、知的エンター
テインメント番組という触れ
込みの書評番組「すずらん本
屋堂」だ。「年末は暇だっ
た」と語るゲストの人気作家

この国のゆくえ

た。

たかが一言。されど、「言
葉は思考を支配する」と誰か
が書いていたのを思い出す。

年末年始、久々に視たテレ
ビ。かの紅白歌合戦では
「女々しくて」という曲目が
気になった。「女々しくて、
女々しくて、女々しくて辛
い」と、去つていった恋人へ
の未練心を熱唱する白組の若

・椎名誠氏に向かい、芸能界
きつての知性派としてレギュ
ラー登用されている女優曰
く、「そうですよ。男性
は、おせち料理とか、お正月
準備なんてないですもの
ね」。

第1次の松本市男女共同参
画計画策定から10年。私の違
和感や衝撃は、ここまでの取
り組みは何だったのかという

落胆から発している。

昨年、「夫は外で働き、妻
は家庭を守るべきだ」と考え
る人の割合が、全ての年代で
増加に転じたとの報道もあつ
た。減少傾向にあつた流れが
突然反転した背景には、閉塞
した経済状況などがあるとい
う。貧しさ・苦しさからの逃
避願望が後退を促し、帰属す
る地点すら見極め切れない漂
流者が増えている。

折しも、太平洋戦争後に連
合国軍総司令部（GHQ）の
一員として日本国憲法の草案
作成に携わり、男女平等に関
する条項を起草したベアテ・
シロタ・ゴードンさんの訃報
が伝えられた。対外的に残し
た最後の言葉は、日本国憲法
の平和条項と女性の権利を守
つてほしいという趣旨だった
と聞く。今日は建国記念日。
（よしむら・さちよ、寿台公
民館長・主婦川松本市）